
9. ヴォーリス建築旧八幡郵便局舎保存再生運動

一粒の会
(滋賀県近江八幡市)

1. 背景と目的

明治38年、滋賀県近江八幡の地に米国からキリスト教伝道という熱い思いを持ち、当時近江商人の士官学校といわれた八幡商業学校に第12代目の英語教師として来日した24歳の青年ウィリアム・メレル・ヴォーリス(日本名 一柳米来留)。彼は2年後に教職を辞することとなりますが、生涯この地を離れることなく、まちがまちであるために産業を興し、教育や福祉、医療活動を押し進めてきました。特に彼は建築に無類の才能を発揮し、関西を中心に1600棟を超える建築を設計しました。「建築の風格は人間の人格と同じく、その外見よりもむしろ内容にある」として、ヒューマニズムあふれる名建築を生み出し、その思想は近代建築の源流となりました。

旧八幡郵便局舎は、明治27年に現在の仲屋町(すわいちょう)に移築されますが、

明治42年に小西家により新しい局舎が建てられ、特定郵便局としての活動が始められました。そして、大正10年、八幡商業でヴォーリスから英語を学んだ小西梅三氏が局長となり、ヴォーリスにより正面部分が実にモダンに改築設計され立て替えられたのです。

近江八幡は、近代日本経済の基礎を築いたといわれる近江商人の発祥地であり、大店が連なる町並みは活気があふれ、特に仲屋町通りは、最もにぎやかな通りでした。その中心部に建つ旧八幡郵便局のモダンな外観は地域のシンボルタワー的存在であり、そこに勤める地元の女性達は袴に身を包み、まさにキャリアウーマンの風情を漂わせました。旧八幡郵便局はまさに地域のコミュニティの場であったと容易に想像できます。建物は、スパニッシュと和風の町屋造りを折衷したもので、個性があり、かつ町並みに違和感なく溶け込んでいました。屋根の軒裏に見る特有の和洋折衷的意匠は、ヴォーリスの初期の作風を伝えるものでした。また、構造は、地震対策、採光、風通しなど、十分検討され、名建築として有名な神戸女学院や関西学院の原型を見ることができました。

このようなまちを代表するような歴史的建造物ですが、戦後郵便局は閉鎖され、建物も賃貸物件として、市内業者が、ギフトセンター兼住居として活用され、正面ファサードのランドマーク的アーチも取り除かれ、大きな看板が掲げられ、内部も造作が加えられるなど、様相は一変しました。

しかし、今から七、八年前そのお店も倒産し、家財商品など残されたまま空き家となり、数年経ちました。ただ、建物の所有者である小西真氏は、ヴォーリス建築という歴史的建



旧八幡郵便局舎

造物の価値を理解され、痛みが激しくなってきたでも取り壊すことなく残されました。しかし、商店街や一部の企業も活用を検討されましたが、初期投資に相当な資金が必要と考え、放置された状態が続いてきました。

ヴォーリズが死去し30年が経過した平成6年、近江八幡市行政は、市制施行40周年記念事業としてヴォーリズ顕彰事業ヴォーリズシンポジウム「ひとをつくり、まちをつくる」を開催し、名誉市民ヴォーリズの精神を活かしたまちづくりの展開が始まりました。シンポジウムは3回続き、特に3回目のシンポジウムを前に、日本だけでなく東アジアの避暑地としての歴史を築いてきた軽井沢町の歴史的建造物をまちづくりとして町内外の人とともに保存運動に取り組む軽井沢ナショナルトラストの見学ツアーが約30名の市民参加のなか実施されました。軽井沢ナショナルトラストの取り組みは、参加者に大きな刺激となり、近江八幡市においても、全国のヴォーリズファンとともにヴォーリズ建築保存運動を通してヴォーリズ建築が私達に訴えるものを後世に伝えていこうという機運が急速に高まりました。その中心となったのが、現リーダーの太田氏をはじめとする建築家やデザイナー、また市職員などの6名でした。

軽井沢の取り組みを目の当たりにし、市民運動によって、町の中心部にあり最もパブリックなヴォーリズ建築旧八幡郵便局の保存再生を図ろう、行政に頼る前にまず自分達ができることから始めよう、全国のヴォーリズファンやヴォーリズ建築のネットワークを作ろうと、湯水のように意見が出され、名称も「一粒のからし種」から一粒の会にしようとなりました。平成9年9月のことでした。

II. 活動の内容

そのような経緯のなか、衆目的であったヴォーリズ建築旧八幡郵便局の保存再生運動がスタートを切ったのでした。所有者である小西真氏も、市民運動という今日までにない方法による取り組みにやや躊躇されながらも、全面的な支援を約束され、また商店街の協力も得られました。私たちはそのような準備を踏まえ、建物の内部に足を踏み入れました。

そして最初の作業は、放置された家財道具や商品の廃棄や看板の撤去作業です。ほぼ毎週2ヶ月間その作業は続き、2トントラック30杯以上のゴミを運び出しましたが、日に日に往時の面影を取り戻す建物を見て、参加する者の気持ちは満足感でいっぱいでした。清掃作業を終えると、まず市民にヴォーリズ建築旧八幡郵便局の素晴らしさと旧八幡郵便局保存再生運動の意義を市内外にPRするため、ヴォーリズ建築研究の権威である大阪芸術大学山形先生を招き、講演会と建物見学会を実施しましたが、約70名のヴォーリズファン



清掃作業



ヴォーリズ写真展

の参加を得、その関心の深さに感動しました。その次の取り組みとして、3月の左義長祭りに、ヴォーリズ写真展を開催し、建物の内部に市民の目を引く努力を重ねました。そのようなイベントとともに、毎週のごとく会議を催し、保存再生運動をどのように全国展開していったらよいのか。建物の再生はどの部分から手を着け、どのような計画で進めればよいのか。その資金の捻出は市民運動だけで進められるのか。どのような活用をすれば、コミュニティの場になるだろうか等の検討を重ねました。

また、できる限り会員の手作業で修繕しようと、ヴォーリズが好んで使った歪んだ煉瓦を中川煉瓦跡地から運び込んだり、コミュニティの場として保存再生を見事に為されている京都市の駒井邸の見学会を開催するなどして、本格的な保存再生運動のノウハウの蓄積に勤めました。

本格的な展開をはかるために、組織としてきちんと立ち上げなければなりません。その前に建物の強度や雨漏れ状態、そして白アリの被害などの調査を実施しました。強度については、特に問題はないと思われましたが、雨漏れと白アリの被害はひどく、早急な対策が必要とわかりました。

そのような調査結果を踏まえ、7月11日設立総会を開催しました。その時点では、すでに県内外から30名以上の会員の加入があり、音楽家やガーデニングプランナーなど、多士済々のメンバーが参加され、それぞれの知力や労力を提供されれば、再生もそう遠くないと感じられました。また、アドバイザーとして山形先生の協力も得られることになったことは、大きな力でした。また、旧八幡郵便局保存再生の意義やヴォーリズ建築の素晴らしさ、「一粒の会」の取り組みや加入について等を一つの冊子に纏めることにより、会員加入促進用のパンフレットや一粒の会通信用の封筒も、組織活動充実の一環として作成しました。

総会当日は、今後の活用の一つとしての、フルートコンサートを2階で開催しましたが、採光だけでなく音の響きも良く、また近江八幡のランドマークである八幡山の景観が素晴らしく、十分コンサートにも使えると実感しました。

また、建物の内部で会議を夜間でも開催したり、事務局として早急に開設したいという思いから、旧局長室の整備を最初の再生として実施しました。内部の他の場所はまだまだ手を加えられませんが、局長室は、市内の漆喰専門の左官屋さんや会員の手作業でほぼ往時のままの見事な空間に蘇りました。一方、2ヶ月に1度程度のイベントを開催することにより、県内外への一粒の会運動やヴォーリズ情報の発信をするとともに、地域のコミュニティづくりの推進を図ることになりました。

10月には、今津教会の浅見牧師を招き、「ヴォーリズを偲んで、そして今に伝えるもの」と題し、講演会を70名の市民の参加をえて開催しました。また11月には、「ドングリキャンペーン」と称し、一粒の会の一粒とドングリの一粒を掛け、八幡山から採ってきたドングリを鉢植えにして局舎中庭に置きました。参加した子供達の心に郵便局舎の存在を身近に感じてもらうという取り組みでした。



旧局長室とメンバー

11年1月には、「洋館と灯り展」、3月には、「街角アート展」を開催。地域の芸術家の発表の場として活用し、多くの市民や観光客で賑わいました。このような活動を続ける中で、人々のコミュニティの場として徐々に認知されてきました。

III. 活動の効果及び今後の課題

少しずつですが、市民の間に私達一粒の会の活動が、浸透されてきたと実感した出来事として、市内のヴォーリズ建築渡辺邸が事情により取り壊されることになりましたが、解体業者さんから、必要な物は持ち帰ってほしいという連絡が入り、ドアやアメリカンコロニアル様式の上げ下げ式の窓そして階段の手すりなどを取り外し、表の煉瓦塀は、会員がそれぞれの空いている時間にげんので1個ずつ丁寧に取り外し、郵便局へ持ち帰れたことは、取り組みの大きな成果でした。また、建物の建築図面は建築家の会員によって新たに引き直し、建物の記録として写真で多数残しました。

いま、イベントによるコミュニティづくりだけでなく、旧八幡郵便局が青空の下で自由にヴォーリズやこれからのまちづくりの議論が毎日のように展開されるサロンとして活用できるような、多くの人の憩いの場になるように、中庭を歪んだ煉瓦や枕木を使い植栽整備し、大きな会議机を配置する準備を進めています。

このように徐々に、人々のコミュニティの場づくりとして保存再生に向けて着実な歩みを進め、会員も70名を超えました。しかし、もっと多くの資金を捻出しなければ抜本的な改修作業に入れません。使用者責任の明確化と共に多くのヴォーリズファンから納得して浄財を頂くには、やはり早急にNPO法人格を取得し、取り組み責任を明確にする必要があります。

また、全国に散在するヴォーリズ建築とのネットワークを築くための方策も早急に検討する必要があります。雨漏れを放置しておけばますます修理費用は膨大なものになります。それぞれ大きな課題ですが、次の私たちの目標は、なんとしてもアーチ型の正面ファサードを蘇らせることです。この部分は人で言うと顔の部分となりますが、正面ファサードが蘇れば、おそらく強烈なインパクトを市行政や企業、市民や道行く人々に与え、保存運動への関心も一気に高まると確信しています。今その実現に向けて、企業等法人への協力依頼も積極的に展開しています。

私たちの活動も、行政や企業といかに連携を結ぶかという新しい展開に入ってきました。



ヴォーリズ記念病院